



編集発行: 北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033 十条台1-2-5 ☎03-5993-1125 令和2年7月発行

北区こぼれ話 第131回

100年あとに写真集 「北区の令和」はつくれるでしょうか？ —残ったフィルム写真、消えたデジタル画像—

このほど『東京都北区の昭和』(いき出版)という写真集が刊行されました。今回の写真集では、建物や風景よりも「人」が写し込まれた日常生活の写真を重視するという編集方針であったと聞いています。北区の部屋でも、多くの写真を提供しましたが、それらは、建物や風景、区役所の行事などの写真がほとんどでした。そこで、編集者は、区内の商店やご家庭、町内会などをまわり、日常生活が写された写真を収集するために奔走したそうです。

私も、微力ながらこの写真集に協力したのですが、その中で考えたことがあります。100年あとに『北区の令和』という写真集はつくれるのだろうかということです。私自身、他の人よりも多めに写真を撮る方です。小さなカメラをカバンの中にいつも入れています。では、写真のデジタルデータをどこに保存しているかと言えば、パソコンのフォルダーの中や、USBメモリーの中です。現在、家で使用しているパソコンは、5台目なのですが、1台目は内蔵ハードディスクが壊れ、2台目はノートパソコンの蝶番部分が壊れ、3台目は東日本大震災で棚から落下、4台目は窓辺に置いて外出したところゲリラ豪雨に見舞われ故障しました。当然、それらに入っていた画像データは全部無くなってしまいました(データの復旧には費用がかかりますので依頼しませんでした)。USBメモリーやCDなどに書き込んでいた分は助かりましたが、メモリーやCDが100年もつとは思えません。私が日常使っているUSBメモリーの中には、知らぬ間に容量が半分に減っているものがあります。つまり、半分壊れたのです。電子基板やプラスチック素材の寿命など、そう長くはないでしょう。また、ハードウェアの変化によりデータが再生できなくなる可能性もあります。今や、3.5インチのフロッピーディスクは過去の遺物です。大きな5インチフロッピーディスクや音楽用カセットテープを記憶媒体として使っていた時代も遠い昔に思えます。

しかし、フィルムや紙に焼かれた写真は、データではなくモノです。記憶媒体の変化とは無関係ですし、保存状態によっては100年以上もちます。事実『北区の100年』という写真集があります。コンビニで写真の現像を受け付けていた時代、印画紙に「100年プリント」なるキャッチフレーズをつけていたメーカーさえありました。

今から100年ののち、昭和の写真集ならつくれるけど、令和の写真集はつukれないという皮肉な状況になるかもしれません。最近、カメラ女子などの間で、レトロな写りのフィルムカメラが静かに流行しています。未来に残るのは、そんな愛好家が撮影したフィルム写真だけかもしれません。今も、フィルムは区内の写真店で売っていますし、現像をしてくれる店もあります。未来に残したい写真は、フィルムで撮影してみたいかがでしょうか。えっ！生まれた時からデジカメだから、フィルムの入れ方がわからないって！うーん。そこからかあ。

【地域資料専門員 黒川徳男】

北区の部屋 今月の展示



飛鳥山 -ひとが少ない場所がオモシロイ！- 期 間 令和2年6月26日(金)～7月29日(水)

飛鳥山といえば、春の桜です。でも、「今年は、お花見を自粛しました」という方が多いと思います。そして、初夏、飛鳥山はアジサイの季節を迎えています。今年も、飛鳥山の線路側には、アジサイ見物でたくさんの人出があるかもしれません。しかし「初夏の飛鳥山を楽しみたい。でも、人ごみは避けたい」という方もいらっしゃるでしょう。そこで、今回の展示では、飛鳥山の見どころのうち、比較的ひとが少ない場所にあるものについてご紹介します。



飛鳥山公園の古墳

【2月28日に公開した特別展示『地域が支えた村の教育力』は、展示場所を1階1番区「北区の部屋」を出たラチス柱そばに移しました。公開期間は、7月29日(水)までです。】

★ブックリスト 作成しました★

「江戸の古地図を見ながら、 気軽に北区歴史散歩」



コロナ禍、思うような旅行(観光)に出かけることが難しいご時世になっています。そんなとき、想像の翼を広げ江戸時代を旅したり、近場の歴史の現場を訪れるのも楽しいのではないのでしょうか？

今回、数ある町歩きガイドブックの中から、**北区が出てくる、江戸の古地図**を使った本を集めました。江戸の古地図と現代の地図がわかりやすく比較掲載され、気軽に歴史散歩ができる本です。下記にリストの一部を記載しました。リストは、中央図書館レファレンスカウンター・「北区の部屋」カウンターでお配りしています。★リスト掲載本は、7月29日まで中央図書館1階1番区「北区の部屋」を出たラチス柱そばに配架します★

書 名	書誌番号	おすすめポイント
古地図のひみつ	3-0002962758	古地図の読みかた楽しみ方がわかる
大江戸タイムスリップ・ウォーキング	3-0001996693	滝野川付近も通った皇女和宮降嫁のルート解説
江戸散歩・東京散歩	3-0001793123	古地図に鉄道路線が合成されていてわかりやすい
「鬼平犯科帳」から見える東京21世紀	3-0002863490	鬼平犯科帳の舞台を著者が訪れて解説。鬼平ファン必読
古地図で大江戸おさんぽマップ	3-0003049704	古地図から江戸の街づくりが見える

渋沢栄一翁 関連書籍コーナー

渋沢栄一は、肖像が新一万円札の顔に、また次期大河ドラマの主人公に決定しました。世の中の、渋沢栄一への関心の高まりを受け、中央図書館のみに設置していた「渋沢栄一翁関連書籍コーナー」を、**区内図書館全館**に設置しました。右の案内板が目印です。

大河ドラマ放送開始前に、北区と縁の深い渋沢栄一翁を知ろう！！



北区の部屋だより 2020年8月 第132号



刊行物登録番号 31-2-150

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 電話03-5993-1125 令和2年8月発行

北区
こぼれ話
第132回

お湯をかけて3分間?!

そくせき

即席料理の名店

おうぎや えびや

扇屋・海老屋



ぶんせい
文政7年(1824)に刊行された『江戸
かいものひとりあんない
買物独案内』という本があります。大坂の
なかがわほうざんどう
本屋である中川芳山堂が出版した、その名
の通り江戸に不案内な人でも一人で買い物
ができるようにと製作されたガイドブック
で、様々な店が扱う
商品ごとに並べられ
ており、飲食店を含
め2,622軒もの店
が収録されていま
す。図入りで詳細な
宣伝文を載せてい
る店がある一方で、
当然載せられてい
ておかしくない大商店
が収録されていない
ことなどから、掲載
料を取って出版され
たと考えられている
大変面白い本です。

さて、この本の飲食の部に王子を代表する料理屋である扇屋と海老屋が掲載されているので紹介しましょう。両店ともに同じ大きさの枠に同じ形式で紹介されていますが、ともに「即席」の文字が目立っていることに気がきます。そうです、この両店は即席

料理の店として有名だったのです。

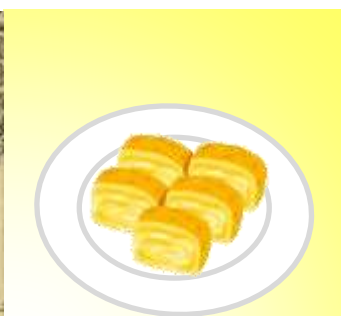
このように書くと江戸時代の扇屋や海老屋はお手軽料理が売りだったのか…と思うかもしれませんがそれは違います。江戸時代の即席とはその場で調理することをい

い、即席料理屋とは事前に人数や料理を予約していなくても対応できる割烹料理屋をいいます。当然、宴席としての会席料理にも対応していたものと思いますが、飛鳥山や王子権現、王子稻荷社といった観光地にほど近く、行楽客が不意に立ち寄ることも多かったのではないで

しょうか。扇屋、海老屋はそうした突然の客にも「御好次第」で対応したまさに即席料理屋だったのです。

間違ってもお湯をかけて3分間待った料理を出していた訳ではありませんのでご注意ください。

【地域資料専門員 保垣孝幸】



※図は『江戸買物独案内』(国立国会図書館所蔵)より扇屋(左上)・海老屋(右下)

*** 北区の部屋・今月の展示 ***

■テーマ：「戦争と学校」

- ・展示期間：7月31日（金）～8月26日（水）まで
- ・展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

総力戦へと突入していった戦争は、いやがおうにも子どもたちをも巻き込んでいきました。戦争という時代を潜り抜けていった北区の学校、そして子どもたちを紹介します。



*** 災害対策ノススメ ***

■中央図書館に「災害対策コーナー」を開設しました！



近年、台風や集中豪雨による大規模水害が多発しています。北区には荒川をはじめ、石神井川など様々な規模の河川が流れており、昨年は台風15号・19号の影響による河川の氾濫や土砂災害の恐れもあると避難勧告が出されました。水害は決して他人事ではありません。

7月20日号の北区ニュースでは、水害に対する注意を呼びかける「水害特集号」も同時発行されています。それを受けて、今回、中央図書館1階1番区「北区の部屋」出入口側に水害も含む「災害対策コーナー」を開設しましたので、ぜひお立ち寄りください。

本格的な台風シーズンが到来する前に、家族で災害対策を見直してみませんか。



*** 平和祈念週間が始まります！ ***

■全図書館に「平和図書コーナー」を開設しました！！

北区では、昭和61年に制定した平和都市宣言を記念して、今年は8月4日（火）から8月8日（土）までの5日間を『平和祈念週間』として、北とびあで開催する平和展などの平和を願う催しを実施します。図書館でもこの取り組みに参加し、平和展に『ドナルド・キーンと平和』、『北区の部屋から～「日常の中の戦争」と「戦争の中の日常」～』のパネルを出展しました。

また、各図書館でも、平和について考えるきっかけになるような本を集めた「平和図書コーナー」を、下記のとおり開設しましたので、平和展示も平和図書もぜひご覧になってください。



<開催期間> * 休館日を除く

・7月31日（金）～8月30日（日）

<開催場所>

- ・平和図書コーナー（一般書）
 - ▶中央・滝野川・赤羽図書館
- ・子ども向け平和図書コーナー（児童書）
 - ▶全図書館 子ども室（子どもコーナー、子どもの本の部屋、こども図書館など）
- ・ドナルド・キーンと平和
 - ▶中央図書館「ドナルド・キーン コレクションコーナー」



◀赤羽台桜並木公園内の防空壕
▼B29による夜間空襲(想像図)





北区の部屋だより

第133号

2020年9月



刊行物登録番号31-2-150

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033十条台1-2-5 ☎03-5993-1125 令和2年9月発行

北区こぼれ話 第133回

十条台の兵器工場と 板橋区のカメラ産業 ～光学が結ぶ線～



かつて、カメラ雑誌で「海軍のニコン、陸軍のトプコン」というような表現がなされていました。日本光学工業（現ニコン）が海軍の潜望鏡などをつくっていたことは、知る人ぞ知る話です。一方、板橋区蓮沼町の東京光学機械（現トプコン）が、陸軍と深く結びついていたのも事実です。トプコンというメーカーは、現在では医療用光学機器などを生産していますが、かつては一眼レフカメラをつくっており、シムラーという銘柄の交換レンズを発売していました。シムラーの語源は、板橋区の「志村」だと噂されていましたが、真偽のほどを確認したことはありません。蓮沼町周辺には、ほかにも日本電産コパルなどの光学機器メーカーが集中しています。かつては、ペンタックスの本社もありました。

大正時代、陸軍は、小石川の陸軍造兵廠東京工場（東京ドームシティの所在地）の中に、光学機器をつくる精密工場を持っていました。しかし、東京工場は、大正12年（1923）の関東大震災で被害にあったので、陸軍もニコンに頼らざるをえませんでした。満州事変後の軍拡の中で、陸軍は、自らも光学機器メーカーを育てることにしました。それが、トプコンです。トプコンの誕生は、昭和7年（1932）のことでした。この会社は、服部時計店精工舎（現セイコーホールディングス）の二代目社長、服部玄三によって設立されました。陸軍は、トプコンに監督官を常駐させ、顧問を置き、生産力を拡充させました。

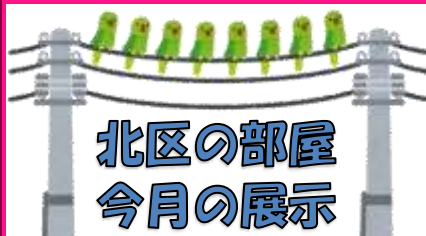
陸軍造兵廠東京工場は、広い敷地を求め、昭和6年（1931）十条台の陸軍造兵廠火工廠の構内に移転することを決め、昭和9年（1934）に移転を完了させました。組織改編により、戦時下には、東京第一陸軍造兵廠として、兵器の製造や軍需産業の監督をしました。十条台の東京第一陸軍造兵廠には、本部のほか、第一製造所（旧銃包製造所）・第二製造所（旧精器製造所）・第三製造所（旧火具製造所）がありました。第二製造所が光学機器や無線機を生産し、光学メーカーと取引をしていました（のちに光学部門は大宮製造所へ移転）。また、トプコンは、近くの西が丘にあった陸軍兵器補給廠に製品を納入していました。神谷にも、理研光学工業（現リコー）王子工場があり、軍需品を生産していました。蓮沼・西が丘・十条・神谷の一帯で、軍用光学製品の製造や監督・補給などがおこなわれていたのです。

東京第一陸軍造兵廠には、技能者養成所（王子総合高校の所在地）という教育機関がありました。技能者養成所の卒業生は、終戦後、様々な産業に散らばっていましたが、板橋区のプロ用カメラメーカー「ゼンザプロニカ」（タムロンに吸収）で活躍し、役員となった人もいました。

戦後、カメラは、日本の主要な輸出品の一つになります。生産拠点の一つが、板橋区でした。その歴史的背景には、東京第一陸軍造兵廠と光学機器メーカーとのつながりがあったのです。

【地域資料専門員 黒川徳男】

参照：『兵器を中心とした日本の光学工業史』（光学工業史編集会、昭和30年）〈この本は、北区の図書館にはありません〉。『板橋と光学』（板橋区立郷土資料館、平成20年）書誌番号：3-0001843645
『板橋と光学 Vol. 2』（板橋区立郷土資料館、平成22年）書誌番号：3-0002071901



北区の部屋 今月の展示

カニ！スッポン！インコ？

－石神井川ぶらぶら歩きで見た自然環境－

展示期間

8月28日(金)～9月23日(水)

北区の中央を流れる石神井川。川沿いをぶらぶら歩くだけで様々な発見があります。「カニ」や「スッポン」がいたり、なぜか「インコ」の群れを発見したり。

今回の展示では、石神井川の自然環境、そして沿岸の歴史についてご紹介します。



平和祈念週間 平和展に出展しました。

『北区の部屋から～「日常の中の戦争」と「戦争の中の日常」～』

8月4日(火)～8月8日(土)まで北とぴあで行われた平和展に、中央図書館「北区の部屋」として参加しました。「45年ぶりに返還された法真寺(赤羽西)の鐘」「陸軍造兵廠技能者養成所生徒のノート」「陸軍造兵廠の学徒章」「日中戦争下のラジオ体操」「戦局を描いた子どもたち」等々の写真やエピソードを紹介したパネル12点を作成し展示しました。展示物をご覧になりたい方は、中央図書館「北区の部屋」スタッフまでお声がけください。

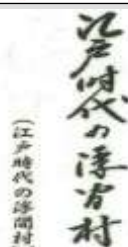


北区に関する資料をご寄贈いただきました



『江戸時代の浮間村』

江戸時代の村の様子わかる貴重な資料です。中央図書館では館内閲覧のみとなっていますが、寄贈下さった方のご厚意で、配架された浮間図書館では、貸出可となっています。江戸時代の古文書を読み解き、当時の浮間村の生活について、詳しく、わかりやすく書かれています。【書誌番号：3-0002870041】



『コモディイダ100年のあゆみ』

北区滝野川に本社のある、株式会社コモディイダの100年の歴史が紹介されている社史です。「飯田百貨店」から「コモディイダ」に社名変更されたときのエピソードなど、懐かしい写真とともに、興味深いお話が掲載されています。

【書誌：3-0003115202】



『おじいちゃんのノート Part2』

北区滝野川6丁目にある「有限会社中村印刷所」で、誰にも真似できない「水平開きノート」を生み出した印刷職人と製本職人、2人のおじいちゃんの情熱を描いた本『おじいちゃんのノート』のPart2。今回の本は、中村印刷所が特許を持つ「水平開き・糸がかり製法」で作られています。

『おじいちゃんのノート Part2』【書誌番号：3-0003122756】

(※『おじいちゃんのノート』【書誌番号：3-0002723500】もあります。)



北区の部屋だより

北区にある会社や工場

北区の部屋だより 第134号

北区立中央図書館「北区の部屋」では、区内の会社や工場が発行している社史を集めています。かつてどのような工場が北区にあったのか。それがどう変化したのか。現在どのような会社が北区にあるのか。こうした企業の様々な活動も北区という地域を理解する重要な手掛かりになるからです。

現在でも北区に本社がある企業としては、おつまみなどの製造販売で有名な食品メーカーのなとり（王子 5-5-1）やトンボ鉛筆（豊島 6-10-12）などが挙げられます。大手医薬品メーカーの中外製薬も本店所在地は浮間 5-5-1 です。また、現在は別の場所に移っていますが、お菓子メーカーのカルビー（赤羽南 1-20-1、本社移転 2010 年）や牛丼の吉野家ホールディングス（赤羽南 1-20-1、本社移転 2016 年）、化粧品の製造・販売を行うコーセー（豊島 7 丁目、本社移転 1965 年）などもかつて北区に本社があった企業です。

さて、これらの会社はどういった由来で現在の社名になったのかご存知ですか？なとりは創業者である名取光男氏の名前が

そのまま社名になっています。吉野家も創業者名のようにみえますが創業者は松田栄吉氏。吉野家は同家の屋号を社名にしているのです。創業者名でいえば、コーセーも小林孝三郎氏の「孝」と創業当初からの経営理念の「誠」でコーセーという造語を社名にしたといいます(註)。

トンボ鉛筆は、小川春之助商店として鉛筆を製造していましたが、鉛筆に付けていたトンボマークが好評で 1927 年（昭和 2）に社名をトンボ鉛筆に変更しました。1925 年（大正 14）に上野十蔵氏が創業した中外新薬商会は、国内と国外という意味で「中外」と名付けたといいます。また、カルビーについては、雑学として知っている人も多いかもしれませんが、カルシウムとビタミン B1 を合せた造語を社名としています。

普段から見なれている、聞きなれている会社名もその由来は実に様々です。まだまだ北区には多くの企業があります。どんな会社や工場があるのか、何故そのような名前なのか、調べて見ると面白いかも知れませんよ。（地域資料専門員 保垣孝幸）



（註）コーセーの社名については、ギリシア語の化粧を意味する KOSMETIKOS（コスメティコス）という単語から創作されたともいいます。（藤崎武男『化粧品ひとすじ小林孝三郎伝』株式会社コーセー創立三十周年記念行事実行委員会、1976 年）※今月、「北区の部屋」にて公開予定です。

▶▶ 北区の部屋・今月の展示 『千川上水』

せんかわじょうすい



武蔵野市関町5丁目の千川上水上流端

■展示期間：9月25日（金）～10月21日（水）まで

■展示場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

千川上水は、五代將軍徳川綱吉の命によって掘られた上水で、幕末には瀧野川村に建設された大砲製造所に引き入れるため、王子分水が掘削されました。

今回の展示では、千川上水及び王子分水について紹介します。



▶▶ 『「北区」が登場する本のリスト』 更新しました！

★北区立図書館では、毎年“北区”に関する記述のある本の目録『「北区」が登場する本のリスト』を作成しています。今年も10月1日に区内全図書館に更新したリストを置きました。

★リストにある本には背表紙に【さくらマーク 】が貼ってありますので、お手に取ってどんな“北区”が描かれているか、ぜひチェックしてみてください。
※図書館ホームページでもご覧いただけます。

★【北区が登場する本】の情報は随時募集中です。“北区”の記述がある本を発見しましたら、各図書館のカウンター等に置かれている『北区が載っている本を教えてください』用紙に詳細を記入し、図書館のスタッフへお渡しください。皆さまからの情報、心よりお待ちしております！！



『「北区」が登場する本のリスト』は、こちらの表紙が目印です。合計1,079冊もの本が紹介されています。

用紙は、各図書館のカウンターや記載台に設置しています。



▶▶ 『東京文化財ウィーク 2020』開催について

東京都教育委員会では、毎年11月3日（文化の日）中心に都内全域の文化財の公開や様々な関連イベントを実施する『東京文化財ウィーク』を開催しています。

本年度の『東京文化財ウィーク 2020』については、新型コロナウイルスの影響により、感染症拡大防止や公開事業や企画事業の実施方法にWEB等の活用も含めるなど、さまざまな対策を講じることを前提として実施することとなりました。また、東京都教育委員会が例年作成していたガイドブック、ポスター等は配布を中止し、WEBやSNSの活用等を中心とした広報活動に転換していくなど取組内容を変更しています。

公式WEBサイトは現在作成中とのことです（9.29時点）。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

◆東京都教育庁
地域教育支援部管理課文化財保護担当
電話：03-5320-6862





北区の部屋だより 第135号



編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」 〒114-0033十条台1-2-5 ☎03-5993-1125 令和2年11月発行

北区こぼれ話 第135回

星新一さんが北区の図書館に 電話をしていました —エッセイ「トリかカラスか」について—



星新一さんは「ショートショート」というSF短編小説で人気があった作家です。星さんはSFだけでなく『きまぐれ暦』（新潮文庫、昭和54年）というエッセイ集も出されていました。それには「トリかカラスか」という作品が掲載されています。なんと、その中に北区の図書館が出てきます。

星さんは、北区の「あすかやま」をずっと「飛鳥山」と表記すると記憶していたのだそうです。つまり「鳥」ではなく「鳥」を用いるということです。幼少の頃に本郷に住んでいて、市電に乗って行った「あすかやま」にはカラスの字が使われていたからです。そこで、昭和15年（1940）の「大東京明細地図」で確認すると、やはりカラスの字であったとのこと。ところが、地図の裏面の町名索引には、トリの字が使われていたそうです。さらに、明治時代の「東都名勝図会」を見るとトリだったそうです。ほかの明治時代の資料でも、どれもトリだということです、なぜ、トリからカラスに変わったのか気になって、友人や都庁に問い合わせても分からなかったとのこと。

そこで、星さんは、滝野川図書館に電話をしました。すると、本館の「北区図書館」に詳しい人がいると案内されました。名称はどうあれ、中央図書館のことでしょう。そして、中村という職員と連絡ができました。中村さんは、さらに森さんという郷土史家を紹介しました。飛鳥山について研究している人でした。森さんは、トリがカラスに変わったのは、市電が通った時であると説明しました。東京市の担当者が、停留場の名を、カラスで書いてしまったのが始まりだということです。神話の八咫鳥を連想したのかもしれないという内容の返事でした。エッセイは、ここまでです。

さて、ここで問題が生じます。区内に、市電と呼ばれたものが、二種類あったからです。一つは、大正12年（1923）本郷通りに市電として敷かれた路線。もう一つは、明治44年（1911）に敷かれた王子電気軌道（王電）です。王電は、第二次世界大戦中の交通統制で市電に編入されました。現在の都電荒川線です。どちらも、飛鳥山に停留場がありました。さあ、この話はどちらの市電のことなのでしょう。そこで、大正初期の地図をひろげてみました。王電は通っているが、本郷通りの市電は通っていないという時期、停留場も公園もトリの字です。念のため、昭和10年（1935）刊行の『王子電気軌道二十五年史』を開いてみると、やはりトリです。ところが、本郷通りの市電が描かれている昭和16年2月発行の『王子区詳細図』を見ると、停留場も公園も「カラス」です。なるほど、市電がカラスを使ったからという説が本当だとすれば、本郷通りの路線の話ということになります。【地域資料専門員 黒川徳男】



（「王子区詳細図」1/9000 日本統制地図株式会社、昭和16年2月発行）

この地図では「飛鳥山」つまりカラスの字が使われています。本稿の作成にあたり今野昌良氏にご協力いただきました。

澁澤栄一 九十回忌 回顧展

昭和6年11月11日 その時、西ヶ原澁澤邸では
逝去前後7日間を東京朝日新聞紙上に追う

主催：北区立中央図書館

企画・運営：北区図書館活動区民の会

期 間：令和2年10月23日（金）～11月25日（水）

場 所：北区立中央図書館2階エントランス

関連図書 1階 北区の部屋

澁澤翁の人生半分以上は西ヶ原にあり、終焉の地となりました。今年九十回忌を迎えるにあたり、当時の人々が澁澤栄一逝去をどのように受け止め、胸に刻んだかを回顧します。

*開催期間中ご覧いただいた方でご希望の方に、展示した東京朝日新聞の記事をまとめた冊子をお配りします。

写真 澁澤栄一
『滝野川町誌』昭和8年より

「澁澤栄一直筆の掛け軸」が中央図書館にやってくる！

滝野川八幡神社所蔵の「澁澤栄一直筆の掛け軸」が展示されます。

日時：10月25日（日）～11月8日（日）

場所：中央図書館 1階 総合カウンター横 レンガ柱

（滝野川八幡神社のご厚意でお借りした、大変貴重な掛け軸です。手を触れないようお願いいたします。）

北区の部屋 今月の展示

テーマ： 澁澤栄一 九十回忌 回顧展

「澁澤栄一伝記資料」の写真に見る葬儀から埋葬まで

期 間： 10月23日（金）～11月25日（水）

場 所： 北区の部屋 展示コーナー

今年新たに、中央図書館「北区の部屋」澁澤栄一コーナーに配架された本の紹介

タイトル	著編者・本のミニ紹介	書誌番号
経済と道徳	澁澤栄一・澁澤栄一の経済哲学を理解できる書	3-0003082524
はじめての澁澤栄一	澁澤研究会・澁澤栄一の多様な足跡をわかりやすく解説	3-0003100558
33歳の決断で有名企業500社を育てた 澁澤栄一の折れない心をつくる33の教え	澁澤健・澁澤栄一が残した言葉をもとに、夢を実現させて持続させるための33のヒント	3-0003103285
図解澁澤栄一と「論語と算盤」	齋藤孝・歴史上の人物との交流や戦国武将に対する考察	3-0003109390
天才 澁澤栄一	星亮一・明治日本を創った逆境に強い男と慶喜	3-0003113637
澁澤栄一と勝海舟	安藤優一郎・幕末明治がわかる！慶喜をめぐる二人の暗闘	3-0003123215
澁澤栄一	木村昌人・日本のインフラを創った民間経済の巨人	3-0003129687
澁澤栄一人生をひらく	前田信弘・偉人に学ぶ教養	3-0003127678
君から、動け。	佐々木常夫・澁澤栄一に学ぶ「働く」とは	3-0003078632
あらすじ論語と算盤(近日配架)	澁澤健・名著「論語と算盤」を400字に要約し、知っておきたいワードを加え補説する。	3-0002978346